



初日の中を力走する選手

元旦の光を浴びて

瓶岩マラソンに145人



市長を先頭に150人が元気に走り初め

新春の一日、瓶岩マラソン大会が開かれ、遠く中村市や安芸市など県下各地から百四十五人が参加し、元旦のすがすがしい空気の中で、小学生から大人までさわやかに汗を流しました。

午前十一時、出発地点の瓶岩公民館前には、ジョギング姿の選手が勢ぞろい。それぞれ自分に合った四つのコースに分かれ、日ごろ鍛えた脚を競いました。

この大会は今年で十九回目、元旦の恒例行事として、今ではすっかり地元で定着し、沿道でも近所の方が出て声援する姿もよく見かけるようになりまし。この大会の世話役を務めるのが、瓶岩体育会の皆さん。先導役に、タイム係にと飛び回っていました。また、地元消防団の方も、交通整理などに協力、地域ぐるみでこの大会を盛り上げていました。

4日には

「走り初め」

御用始めの四日、今年の健康と飛躍発展を願って、恒例の「新春走り初め」が行われました。午前九時半、市役所玄関前に集合したトレーニングウェアの小学生や一般市民、市職員ら約百五十人は、準備体操をした後、小笠原市長、浜田助役らの先導で新春の後免商店街を通る「五」のコースを元氣いっぱい駆け抜けました。

市の郵便局から元旦の朝、年賀配達の出発に励ましの言葉を送ってほしいとの要請があり、出席したのでその要旨をご紹介します。

明けましておめでとうございませ。皆さんは、本年最初の幸運を運ぶ人たちです。日本のサンタクロースです。配達するだけでなく、道で行き交う人がいたら、その時、おめでとうございませの声をかけてあげてください。コエをかけること、野菜もコエ(肥)をかけること、立派に生長します。また声をかけられた人たちは、心にほほえみを感じることを思います。

年賀配達の労をねぎらう

三時間やってみる、賞品はあげないよと言われたら、いかなるパチンコ狂でもやらないでしょう。世の中には金持ちもおれば、思えない人もいます。こんな歌があります。上みりやきりない下みて暮らせ

下には遊山の 屋形舟 年賀状をもらうと、だれでもうれいものです。「一年の計は元旦にあり」との言葉があります。年賀状も、その役割りの一部を果たしてくれらることもありませう。それらと思うと、配達のご苦労に対し、私は心から感謝の言葉を送りたいと思います。さあ頑張つて気を付けて、行っていらっしやい。ご苦労さんです。 広報委員長 山本尚一



団員の見守る中、北部分団による模範操法

320人で出初め式 防火に対し決意新た

消防出初め式が一月六日、土曜市会場の市立中央公園で行われ、日ごろ防災活動に積極的に取り組

んでいる各消防団や市消防署員ら約三百二十人が勢ぞろいしました。

まず、斎藤正展団長が「本格的な火災の時期に入り、いっそうの注意をしよう」とあいさつ。小笠原市長らが、整列した二十二分団の人員、服装点検を行いました。その後、県大会へも出場した北部分団による模範操法が行われ、各団員も真剣に見守りながら、防災に対する決意を新たにしました。

この冬は雨が降らず、空気がたいへん乾燥しています。くれぐれも火の用心を、

しいものです。

ところで、国保を取り巻く環境が変わってきました。

五十八年二月からスタートしました老人保健法も、不安ななかにも、暮しの中に浸透してきたようです。また、この法とあいまって、国保の医療費も「使い捨て時代」よりも実効ある「努力時代」に転向している現状です。

市民の皆さんが取り組む「健康づくり」のための活動も活発化され、多様な仕事の合間から、台所から、健康を考えていただく機会が多くなってきました。

健康こそ最大の資産です。今日の厚生、努力が明日の健康を作り出す大切な要素かと思えます。

図書館に図書設置 知識面からも健康を吸収していただくために、図書館に健康に関する図書を設けています。「在宅看護への出発」(木下安子)「医

市民健康保険

電話 2111 内線 135

日章小らが最優秀

ビデオ・スライド・8ミリコンテスト

市視聴覚ライブラリー主催の「第二回ビデオ・スライド・8ミリ映画コンテスト」がこのほど行われ、各部門別入賞者が次のとおり決まりました。

ビデオの部

最優秀賞 米作りを始めた人々 (日章小学校高学年、優秀賞 楽しい合宿(後免野田小)、奨励賞 テレビ番組をつくる(十市小保

健部、特別奨励賞 ไร่キョをつらう(大篠小ビデオクラブ) スライドの部

優秀賞 へちまの話(下村しづ) 8ミリ映画の部

最優秀賞 白滝は今(相田正文、優秀賞 恐れゆるタルボサウルス(久家豊)、奨励賞 みじ狩り(野島忠士)

病みて知る健康よりも

培い結ぶ明日の健やか

暮らしの中の国民健康保険

五十七年度の一年間に、南国市が国民健康保険で負担した医療費総額は、二十一億二千万円でした。このうち国保税(保険料)で賄われた部分が六億五千万円で、これを国保加入の一万七千人の一人当たりで見ると、約三千八千円の保険料となり、十二万五千円の保

障をしたことになりませ。

五十九年度予算を見積もる時期になると、こうした医療費の支出が気になってきませ。医療費が伸びれば、保険料を増額しなければならなくなるからませ。

毎年二けたの医療費の伸びが出ていましたが、五十八年度は幸い